

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 山川 恵里佳

## 1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて平成30年2月4日から24日までの間、韓国慶山市に留学しました。私が通った大邱大学は郊外に位置し、ゴルフ場や牧場を有する敷地面積がとても広い大学でした。大学の寄宿舎に入り、キャンパス内にある語学堂で韓国語を学びました。敷地内には郵便局やジムがあり、食堂も充実しており、留学生活において不自由することはなかったです。

## 2. 語学堂

語学堂には全部で10クラスあり、1クラス15人の留学生がいました。私のクラスは中級で、日本人は少なかったです。モンゴルやベトナムからの留学生が多く、徴兵制度について聞き、日本は平和だと思いました。授業は会話中心で、当てられていなくても発言する生徒が多く、私も刺激を受け積極的に発言するようになりました。担任のユンヒョジョン先生は気さくな方で授業はとても楽しかったです。質問もしやすく、分からないところはすぐに教えてくれました。また授業以外のことにも相談に乗ってくれました。とても恵まれた学習環境でした。

## 3. 韓国の病院と薬

滞在中に体調を崩しました。帰国時に発熱があるといけないので、帰国前日に日本人のアドバイザーに付き添ってもらい病院に行きました。抗生物質と5種類の薬が処方され、薬局に行きました。服薬指導がなく、薬の名前や効果を聞けないまま全て飲みました。薬が分からない患者さんの不安を考えると、服薬指導は大切だと改めて実感しました。

病院・薬局ともに空いていました。日本の混雑との違いを疑問に思い韓国の医療制度について調べました。個人負担金が高いようで、日本の医療制度は優れたものだと思います。

## 4. 文化学習

語学堂のアクティビティで、大邱市の大邱薬令市場に行きました。朝鮮時代に作られた薬令市場には韓方薬局や薬材店が多くあり、多種類の生薬が売られていました。

また滞在先から片道2時間のところにある安東市に行きました。そこには世界遺産の河回村（ハフエマウル）があり、朝鮮時代の集落がそのまま残っていて、現在も子孫の方々が生活していました。両班文化と庶民文化が調和されながら保たれており、村全体が博物館のようでした。





## 5. おわりに

韓国はバス社会で、滞在中よくバスを利用しました。乗る意思表示をしないとバスに素通りされるので、手を振って乗ったこともありました。授業や韓国での生活を通して、自己主張の必要性を感じ、視野が広がりました。日本以外の国を知ることは、今まで気付かなかったことに気付き、知らなかったことを知り、成長し努力するきっかけを与えてくれると思います。

このような機会を与えて下さりありがとうございました。

